三月七日　夕刊

常磐毎日新聞

日刊

定價一部金貳錢　月金五拾錢　郵税五錢
廣告料五號十行金壹錢一行金五拾錢
日曜祭日の翌日休刊
發行兼編輯人印刷人　川崎一丸
福島縣石城郡平町長橋町三五
發行所　常磐毎日新聞社
電話六三〇番
印刷所　常磐毎日印刷株式會社

創作

死を撲ぶ人々

村瀬忠夫

……（二）……

女中のミネと姉の二人である。靜江にとつて絶好の機會だつた。便箋を取出し簡單に記した。

私は當分の間自分の住みよい天地を求めて其處で過したいと思ひますの、夫故御心配なくお探し下さいませ様な事しないで下さい

五月七日夜　靜江

御兩親様

居間の父の机の上にソット置くと其のまミネに其處まで買物に行つて來ると言つて外に出た。すぐに神樂坂の明るい街路に出た。此處は牛込の銀座と言つてよい處、サラリーマン、學生藝妓、紳士等々人生の縮圖だ、人波にもまれやつとの事飯田橋驛に着いた。

○

『まあこんなにお早く、未だお掃除も出來て居りませんのに　こんな姿で私なんだか羨しいわ』と靜江は白いエプロンで顔を蔽つた。『お客さんで無いの、早くお掃除しておしまひよ』と奥で叫んだのはマダムの聲らしい、續いてこうゆう女がその代表だと思はれる年増女が顔を見せる。『未だ來た許りでお客さまの御相手も出來ず困るんですよ、それにお嬢さん育らなものですので』と言つて靜江の方を一寸のぞく様にして見た敏夫は『餘計な事を言つて呉れたものだ』と心の中に思つた。『窓際のボックスは掃除がすんだのですからどうぞこちらへ』と拔目の無いマダムは一人の客をも逃すまいと愛想よく迎へる。『お母さん酒星さんよ來て頂戴』と呼んだのは一人娘のみよ子……愛稱ミミ……の聲に異ひない。『どうぞ御ゆつくり』とマダムは奥に引込んで行つた。『やれ安つたんだよ』と態々嫌ゝと言つて。『私知ら無いわ』彼女は怒つて　しまつたらしい。『まあ夫婦仲のよい事』と何時の間にか其處に來たのかと思はれる愛子が側で嘴を入れる。『何う言ふ？』敏夫かやゝ怒り氣味に愛子をにらんだ。可愛想にお嬢さん育ちの顔をあからめ『愛子さん　非道いわ、ひどいわ』と言ふ　さへやつとの事であつた。敏夫は胸の内でこう思つて居た……俺は靜ちやんに戀なぞして居ないとはつきり言ふ事が出來るのだ、別に好きでも無い、嫌ひでも無い程度なのだ、唯純眞な女が一美しい白百合が塵にまみれ純白の衣を汚しはしまいか　又他の人に傷つけられ　もぎとられでもしないかと心配し出來るならそれを保護してやらうと善意的な同情心を持つて居るだけなのだ……と、それで表面は靜江の嫌がる事をも平氣で眞面目腐つて云つて見もした、たかゞ一小さな喫茶店の女一惚れるかも知れ無いこんな女に戀されては困るとさへ思つた。本郷×××病院の直ぐ側の喫茶店モンクールの朝の風景はざつと此の様である。

●●●●

●●●●

◈00000000◈
明日の献立
◈00000000◈

【朝】味噌汁　麩　小付
煮豆
【晝】野菜揚物丼　小皿
こんぶ辛煮
【晩】鷄肉　すきやき　鍋
清汁　わかめ

心、愛する靜江と二人きりだ』と敏夫は心の中で思つた。『敏夫さんどうして學校をお休みになりましたの』と心配想な顔付きして靜江が話しかける。『勉強は生れつき虫が好かなんだ、否夫より靜ちやんに會ひたくな

一冊の代金で
御希望通りな
五冊の雜誌が
白山に讀める
川崎巡回文庫
電六三〇番
（申込次第規則書進呈）

誠光院儀葬送の際は遠路態々御會葬被下誠に御鄭重なる御香奠を賜はり御厚志此段難有奉深謝候拜趨御禮可申述筈の處乍略儀以紙上御禮申上候
昭和十一年三月七日
諸橋敬一郎
諸橋武
外親戚一同

▽是非！
御融通には御用命下さい
萬事便利な御相談に應じます
三井質店
平・四　電六〇六番

外科
X光線科
専門
上田外科病院
平町南町
電話一二九番

お醤油は……ヤマフル
醤油味噌
たひら正宗
鰹節　食料品
鹽屋
山崎合名會社
福島縣平町【電話營業部一〇製造工場七】
明治生命磐城代理店　山崎與三郎

魚清のサービス
たちちりなべ　三十錢
ちりなべ　三十錢
あなごなべ　三十錢
よせなべ　三十錢
かきなべ　三十錢
ねぎまなべ　三十錢
煮込なべ　三十錢
鳥なべ　三十五錢
牛なべ　三十五錢
豚なべ　三十五錢
かきフライ　二十錢
かき酢の物　二十錢
あんこども酢　十五錢
定食
四品　五十錢
三品　五十錢
五品　八十錢
七品　八十錢
●出前持大至急入用
さしみ御飯　二十五錢
吸物付
天ぷら御飯　三十錢
吸物付
海老天ぷら御飯　四十錢
吸物付
海老天丼　三十五錢
海老天ぷら　三十錢
海老フライ　三十錢
天丼　二十錢
親子丼　二十錢
すし　二十錢
ちらし五もく　二十錢
御子様すし　二十錢
まぐろすし　二十五錢
鐵火丼　二十五錢
鐵火巻　二十五錢
好たけ巻　二十五錢
あなご巻　二十五錢

平三警察署通り
魚清食堂
電話六三三

吉田眼科醫院
平紺屋町　電話六八番
醫學士　吉田久雄

磐中卒業式

雄渾なる意氣で

前途に邁進すべしと

伊藤知事の告辭

磐城中學校の第三十六回卒業式は今七日午前十時より同校講堂で來賓、保護者多數出席の下に擧行、國歌合唱、敎育勅語捧讀、卒業證書授與、敎練合格證書授與と型の如く式は進行小檜山校長の訓辭に次ぎ伊藤本縣知事告辭を學校長代讀、來賓靑沼平町長、井上元縣議の祝辭あり在學生總代四年山名龍男君の送辭、卒業生總代水野亨君の答辭、卒業生保護者總代内郷村大内民惠氏の謝辭、校歌合唱あつて午前十一時閉會した、伊藤本縣知事の告辭左の如し

本日茲に本校卒業證書授與式を擧行するに當り卒業生諸子の前途を祝福し且つ一言素懷を述ふるの榮を得たるは本官の洵に欣幸とする所なり

惟ふに帝國の現狀は内に國家的自覺愈々昂り外に國威の顯揚著しきものありと雖も内治外交共に多事多難將に國を擧げて國力の充實と國運の進展とに努むへきの秋なり

諸子は本校に入學以來螢雪の功を積むこと數星霜今や其の課程を了へ各其の志す所に隨つて社會の實務に就き或は上級の學校に進まんとす須く世界の大勢と帝國の現狀とに鑑み更に一層の修養を積み刻苦精勵克く其の本分を盡し以て本校敎育の眞價を發揮し母校の名譽と國家の期待とに添はんことを期すべきなり

希くは諸子剛健なる志操を持し强壯なる身體を鍛え潑剌雄渾なる意氣を以て其の洋々たる前途に向つて邁進せられんことを一言陳して告辭とす

昭和十一年三月七日

福島縣知事　伊藤武彦

全國に及ぶ卒業生の出身町村

螢雪の功なり輝かしい明日を約束されてけふ晴れの卒業式を終えた卒業生百八十九名の出身町村別左の如く郡内は平町が最多數で他府縣は佐賀、岐阜等全國に及びさすがに東北一の生徒數を擁する同校の面目躍如たる感がある

△石城郡　平三三　湯本七　小名濱二　勿來二　植田二　四倉三　江名三　内郷十六　草野六　磐崎三　赤井三　永戸二　高久三　神谷六　夏井二　好間八　平窪三　錦二　泉三　山田一　鹿島二　飯野五　上小川一　下小川二　渡邊三　川部一　田人一　澤渡三　大浦二　大野三　計一三三

△他郡市　信夫郡一　伊達郡一　安達郡一　石川郡二　双葉郡十三　耶麻郡一　相馬郡二　田村郡四　西白河郡二　計二十七

△縣外　茨城八　岐阜三　宮城　靜岡　岩手　青森　栃木　東京　富山各二　山形　新潟　佐賀　神奈川各一　計二十九

非常時女性の覺悟を强調

聯合女子青年總會

石城郡聯合女子青年團幹部講習會並びに同第三方部總集會は今七日午前十時より平第二小學校講堂で開催橋本副團長の開辭伊勢神宮、宮城遙拜、國歌合唱、勅語令旨奉讀に次き團長千葉第二小學校長の式辭、大嶺平青年團長の祝辭あつて議事に入に會務報告及び指導者講習會の報告で正午少憩に入り愛國婦人會專任講師橋本春喜氏の二時間余に亘る非常時女性の覺悟を强調する大講演あり午後四時閉會したが出席人員八百名あり非常に盛會あつた

湯本で近く豫算町會

本日内示會開會

湯本町十一年度豫算内示會は本七日午前十時より行はれたが近く豫算町會に招集町長の説明に次いで委員會に附すことになつたが總豫算額廿一萬四千八百三十四圓で例年と大差なく豫算中重なるものとしては水道部に五萬二千九百卅圓を計上してゐる

平の鐵道採用試驗

受驗者七百名

福島宇都宮から殺倒

既報明八日午前八時から磐中講堂で行はれる鐵道傭員採用試驗は水戸運輸事務所長以下各係官が出張して行はれるが志願者は本日現在で七百名に達し遠く宇都宮方面からも志願者が殺倒してゐる

郡産業理事會

産業組合石城部會は來る九日午前十一時より友ホールに於いて理事會を開き總會提出事項を決定する

臨時貸車運轉

平―仙臺

十四日から五月末日迄

平驛では愈々農家の春播肥料農具等の購入期となつたので來る十日から五月末日迄平―仙臺間二本、平―浪江間一本計三本の臨時貸物列車を運轉する

大浦强化調間

大野産業組合は來る五日組合强調週間の催しとして部落懇談會を開き九日には雜貨特賣デーを開く

若人千三百名が平町に會同

あす聯合青年方部總集會

帝都事件で講師變更

石城郡聯合青年團第三方部總會は明八日午前十時より聚樂館で開催國歌合唱令旨奉讀會長の挨拶告辭あり協議に入り宣言並に決議をなし功勞者表彰、來賓の祝辭に次ぎ左記會員の意見發表、講演に移るが出席會員は千三百名に及び劍道大會餘興の映畫會もあり盛會を豫想されてる

「我等の資本」小川吉田正己「非常時下農村青年の大使命」飯野波汐英勝「武道と青年」好間第二栗城映

因に講師は鈴木讀賣新聞外報次長が帝都事件多忙な爲元滿鐵敎育主事杉本春喜氏に變更した

平職業紹介所報告

回　人を求める方

△雜役　廿才前後　尋卒

給料面談

△コック見習　廿才迄　尋卒　月五圓

△漁夫　五十才迄　月卅圓

△農夫　廿五才迄　月八九圓

回　職を求める方

△工　廿三才　高卒

△自動車助手　廿才　高卒

△小守　十一才　尋一修

△洋服裁縫　卅六才　尋卒

平町人事

回　出生

△古鍛冶町四志賀宗氏長女梅子さん

回　婚姻

△鎌田町二六鈴木壽雄氏(二八)草野村大字下神谷字土井一九馬上キクさん(二六)

美味！芳醇！
宗正らひた
山崎合名會社
電話一〇番

市原醫院
平町・四町
電話一一四番

開院
外科一般特ニ内臟外科
皮黴科　肛門病科
北川外科
レントゲン科　物療法科
平町新川町(諸橋醫院跡)
醫學博士　北川芳夫
醫學士　奥義弘
電話四六四番
イツデモ入院來マス

大越中佐が自刄の命日

神軍

大越會が墓前祭執行

內郷村大越會では今七日の大越中佐が李官堡の激戰に自刄されたる命日に際し午前十時より內郷村願成寺で墓前祭を盛大に執行、正午より內郷第二小學校講堂で元高知中學校配屬將校中野中佐の講演會を開いた

殉職警官の弔慰金

續々集まる

平町仲町十一西山孝賴君は昨六日平署に去月帝都事件で殉職した本縣出身村上巡査の遺族に送達して呉れと新聞配達や牛乳配達で得た金壹圓を弔慰金として差し出したが平署管內では續々こうした弔慰金の申込者あり現在までに管內三業保險組合が金五圓、內郷巡査部長派出所宛に匿名で五圓、十圓と寄附した人等があり今後共どん〳〵集まる樣なので平署では纏めて送達することになつた

電柱衝突は辛デス

トラック事故二件

○

平町大町三〇佐川自動車部運轉手飯野村生大河原重德（二八）は六日午前十一時頃建築用鐵材を滿載したトラックを運轉茨城縣多賀郡磯原町に向ふ途中湯本町大字三函地內國道で前方から來た荷馬車をさけんとして誤つて東部電力の電柱に衝突、切損したゝめ平署で取調べ中

○

豐間村大字豐間字八幡町管野守雄方運轉手宮戸一郎（二）は六日午前二時頃トラックに鮮魚を積載して相馬郡原町に行つての歸途過勞からねむりして運轉してゐるうち同郡小高町地內國道に差かゝつた際電柱に激突汽罐部を破壞した上宮戸は前額部に全治十日間の裂傷を負つた

地久節に

湯本愛婦活動

兩慰安會を開催

湯本町愛婦分會では六日の地久節に同町小學校で遙拜式を行つて後同町三函座で午後六時から貧困兒童並に傷兵遺家族慰安會を催した

美人酌婦

情夫と逃走

小名濱黃金屋の花子

小名濱町料理業黃金屋事鈴木ウメ方抱酌婦山形縣西村山郡西村山村生れ花子こと國井ミヨシ（三）は六日午後二時頃入浴に出かけたまゝ歸らず前借三百九十五圓を踏み倒して行方を晦ましたので目下搜査中

同人は相當の美人で漁夫達に騷がれてゐた女で裏面に情夫の手が動いてゐる模樣である

好間村の畫火事で危い老爺を救出す

近く三青年表彰

昨六日午前十時半頃好間村大字北好間字籬隅田炭礦坑夫長屋佐藤佐治郎方から發火二棟十一戸を全燒して同十一時半鎭火したがその際同坑夫湯田徹（二四）安齊利雄（二六）增子金藏（二二）の三君は發火と同時に馳けつけ消火に務める傍ら逃げ遲れて危く燒死せんとした罹災者中の平山定吉（九〇）爺さんを協力して猛火の裡から救出したが湯田君は救出の折猛火にあぶられて顏面に大火傷を負つた

尙平署では前記三君を人命救助で近く表彰する筈

男から男を求めて

描く教壇愛慾圖繪

草野生の女教員が

無軌道肉慾逃避行

草野村下神谷片寄サダ（二六）假名は三年前から茨城縣眞壁郡五所村某小學校に教鞭を執つてゐたが又る一月十八日「オバサン」と稱する四十五、六才の婦人と共に缺勤届を出して出かけたまゝ復校せず姿を晦まし東京市四谷區花園町某アパートに愛人の大場佐武郎（二八）と同棲してゐたが四五日前元の情夫茨城縣眞壁郡河內村の酒寄三郎（二七）がアパートにさだを訪れたことから騷ぎになり四谷署の人事相談係の厄介になつたが性來淫婦のさだは昔の情夫酒寄のことは既に顏さへ知らぬと云ふ程で係官を呆れさせたが結局酒寄は失意の傷心をおさへて郷里に歸つて行つた

炭車に狹まれ

坑夫の死

坑內作業の椿事

赤井村福島炭礦坑夫柳田梅吉（三〇）は六日午後一時頃本坑々內で採炭作業中背後から來た炭車と炭層に狹撃され重傷、間もなく死亡した

一月中の紹介成績

平職紹調査

平職業紹介所が去月中扱つた求人は男一一一女九計百二十名、求職は男四九女六計五十五名で結局就職したものは男三二女の三十七名であるが一月と比較して求人に於て十名の增加を見、求職に於ては六名の減である、亦昨年同期との比較は求人百六十名求職百七十名の何れも減である

行路病者死亡

平町立町地內地藏堂は境內で去る三日行倒れとなつて平町役場で收容した安達郡下川崎村大字川崎字松の下二〇管野文彌（五五）は四日午後九時腦溢血で死亡したゝめ本日原籍地に照會した

陸軍記念日に

郊外遠足

平第一小學校が

平第一小學校は來る十日の陸軍記念日を卜し左記方面へ郊外遠足を行ふ

（尋一）松ケ岡公園　大舘八幡神社（尋二）平窪村大室地內寺院神社（尋三）好間村上の原水道貯水池

（尋四）內郷村金谷鷹打場

（尋五）小川村江筋取入口

（尋六）好間村古河炭礦

（高一）小川村諏訪神社

（高二）小川村小玉川發電所

小荷物扱減少

平驛統計

二月に舊正月なく

平驛小荷物扱所で去月中に受付た小荷物發送數は六千二百六十九箇到着が八千七百七十三箇でこの賃金千三百七十一圓を擧げたが昨年同期の發送六千四百六十三箇到着八千四百七十六箇この賃金千七百三十六圓に比し約四百圓の減收を見たが昨年の二月には舊正月があつた爲增收を見た譯である

男女工見習

右至急募集す

希望者來談あれ

常磐毎日印刷會社

長橋町　電話六三〇

明日のラヂオ

仙台放送局

八日

今晚は晴明日も同樣

今晚の部

▼後六、〇〇 子供の時間 お話「仙人濟小塘」邢奎彥

▼後六、二五 講演「電話の發明から今日まで」梶井剛

▼後七、三〇 哥澤「新曲櫻姬」哥澤芝松他

▼後七、四〇 立體漫談「夜から朝まで」大岡怪童　大山デブ子

▼後八、一〇 ピアノ獨奏 笠田光吉

▼後八、三〇 講談「眞柄のお秀」西尾麟慶

▼後九、〇〇 時事解說 太田正孝

▼後九、三〇 時報 ニュース 明日の話題 氣象通報 番組豫告

明日の部

▼前七、三〇 朝の修養「道元禪師の御生涯」終 曹源

▼前九、三〇 子供の時間 ラヂオ世界見物「北アメリカ」東福義雄

▼前一、〇〇 日曜勤行 涅槃會實況—高城府外開運寺より

▼前一〇、四〇 講演「將來の重要輸出品たるべき工藝品」國井喜太郎

▼前一一、一〇 趣味講座「カメラに求むる東北的取材」金丸重嶺

▼後〇、五〇 滿洲ハルビンより 露西亞音樂

◇レヴユウの午後◇

▼後一、二〇「懷しの映畫」加藤柳美他

▼後二、〇五「東京をどり」松竹少女歌劇團（新橋演舞場より）

▼後二、五五「暢氣な仇討」エノケン一座

▼後六、〇〇 子供の時間 管絃樂 東京オーケストラ

▼後七、三〇 講演「臺灣の使命」河村徹 臺北より

▼後八、〇〇 俚謠聯曲 長野市菊田劇場より

▼後八、一五 漫才「つい春風に誘はれて」花蝶川柳

▼後八、三五 浪花節「束草紙つゞれの錦」早川燕平 長野市菊田劇場より

▼後九、〇五 歌謠曲 喜代三 長野市菊田劇場より

続る解瓦の角の設計人々

（東宝映画上映）

悟道軒圓玉（作）
丸尾至陽（画）

六六　下駄の置物

八百松は下駄を脱いでそれを屋敷の床の間にかざり、いなせな若いものを左右になべた所へ恐れながら女中が運んで來た酒

松『さア一杯飲れ』

○『松兄イ、お前は無法ものだ、然しいゝ度胸だぜ、御用聞の出したうなぎ屋へ無頼漢が土足で踏込み下駄を床の間の置物にして酒を飲むとは、こいつは兄イでなければ出來ぬ放れ技だオイ姐や鰻は焼けたらうドシ〳〵持つて來てくれい、兄御馳走になりますぜ』

酒を飲んでゐる内に大皿でうなぎを女中が持つて來た、八百松は女中に二歩やつて

松『姐や近常はどうした、こゝの主人は居るかそれとも不在か』

女『御本宅にお在ですよ、今使を出しましたからもう參るでござゝませう』

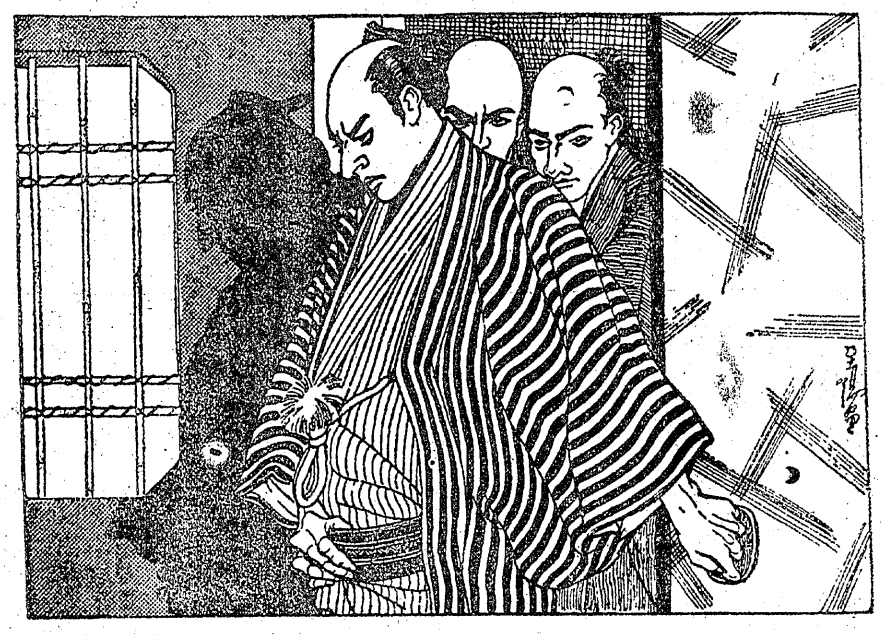
松『きたら呼んでくれナ、神田の八百松が祝ひに來たといつての、それからうなぎを五十兩ばかり焼いて來てくれ』

女中はびくりして松の顔を見つめてゐたが

女『五十兩うなぎを焼きますの』

松『さうよ、水屋敷の部屋に居る若い者に食べさせるのよ』

女中はあきれて下へ行き



近常の女のおとくの前へ來て

女『二階のお客様は氣狂ひですね　鰻を五十兩焼いてくれといひますが』

おとくもこれにはびつくりしたが

とく『そんな事をいつて、さんゝ〳〵嫌がらせてお金を持つて行くんだよ、今に親分が來るからそれまでは何を云はれてもハイ〳〵といつて相手にならいやうにして』

女『他のお客様はびくりして居りますわ』

とく『親分が來たならばあいつらはふるえるだらう』

なぞといつてゐた、八百松は手をたゝいて女を呼び

松『酒を持つて來ナ、徳利で持つて來てはすぐになくならぜ、二樽ばかりかついで來てくれ、それからうなぎにまだ焼しれえの、焼くのが面倒ならば笊に入れたまゝ持つて來な、そいつに鹽を付け　食ふから』

女『モウ少々お待ちトさいまし』

女中は眼を廻轉してあきれてゐる所へ梯子を馳けて上つて八百松の座敷へ入つて來たは卅四五になる目は凄味のある男、茶万筋の結城紬の小袖に胡麻柄の唐棧の羽織に紺無地の博多の帶服裝は江戸式、續いて上つて來たは若い者七八人、先に立つたその人が八百松とそれに居る若い者をズート見渡して

○『ヤイ松、われはこゝを何處だと思ふ、いやさこの店はなんだと思ふ』

といつた、松はフゝンと笑ひ

松『お前はなんだイヤサ何でそんな事を云ふ』

○『俺は近江屋常次郎だ』

松『ウム近常といふ岡ッ引はてめえだナ、こゝは江戸の藥研堀にこの店はまづいうなぎ屋だ、そのうなぎ屋へ來て酒を飲むなら善くねえ事か』

常『酒を飲むなら神妙にしろ』

松『オイ近常、ヤイ岡ッ引よく聞け、きれいに勘定を拂つてやれば大事な客だらう、その客が三指を突いて左様あそばせ、お酒を頂だいいたしますと行儀正しく飲み食ひをするものはなからう、まして俺たちは無頼漢だ、神妙にしろて酒を飲んでは腹の中で腐つてしまふ』

常『コレ松、この二階には壘がしいてあるぞ、何で土足のまゝで上つて床の間に下駄を置いた』

松『そいつが宜くねえか、オイ常や、てめへも血のめぐりの惡い奴だナ、岡ッ引の事を犬といふぜ、犬の住まへ人間様がお出でになるのだ土足で上がればとてそれについて苦情をいふ所はなからう、また床の間に置物がねえからその置物がはりに下駄を置いたがわるかつたか、不風流な奴だ』

といつて笑つたが、風流人なればとて下駄は置物にはいたすまい。

夜診
胃腸病　性病
内科　胃腸病科
花柳病科　性病科　皮膚科
専門
松村胃腸性病醫院
（平町南町一〇七番）
療間

しもやけ家傳藥

是マデしもやけハ暖カニナラネバ治ラヌモノト諦ラメテ居ツタノガ一日二三回二三日ノ御使用デくずれたしもやけモ忘レタ様ニ完全ニ治リマス。

現今ノ塗藥トハ異リ罨法ニヨリ根本カラ除去スルモノデアリマス。

しもやけハ寒サノ爲ニ皮下毛細血管ガ障害ヲ起ス爲ニナルノデ塗藥等デハ決シテ治ルモノデハアリマセン、又くずれたしもやけニ塗藥デハ塗布ト同時ニ痛ミヲ感ジタリかゆみヲ増シタリ致シマスガ此藥ハ無刺戟ノ中ニ心地良イ罨法ニヨリ皮下ノ血行ヲ良クシ幼キ御子様カニモ喜バレ如何ニくずれたしもやけデモ完全ニ全治致ス事保證致シマス是非一度御試シ下サイ。

東京丸井邦寶堂
福島縣特約
茨城縣特約
平町一丁目
伊藤石炭店
電話三四九

花環　神佛葬具
盛花
久壽玉
御弔燈
寶明燈　靈柩自動車
造花
は
平新川町
橋本屋
電一六三

外科
花柳病科
専門
木村外科醫院
電話三〇九番
平町六丁目橋際
自炊入院の便あり